

8月18日(火) みくも地域人権福祉市民交流センターを訪問しました！

対談テーマ

地域の思いに寄り添い、人を大切にした「学び」「つながり」の拠点として
～学校と地域をつなぐ取り組み～

困難な状況にある子どもたちに焦点を当てた取組や教育機関との連携について意見交換をし、今後の県の施策に生かしていく目的で訪問しました。

訪問した委員

土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員 野村 早苗 委員

みくも地域人権福祉市民交流センターについて

湖南市のみくも地域人権福祉市民交流センターは、人権啓発の拠点・地域住民の交流拠点・相談業務や福祉の拠点施設です。「三雲ふれあいセンター」の愛称で、地域の人に親しまれていて、福祉と人権のまちづくりを進めています。



訪問の様子

初めに、センターの役割や子育て支援学級事業、校区の連携の取組（県学びの礎ネットワーク推進事業・湖南市人権教育ネットワーク推進事業）について説明を受けました。次に施設見学を行い、意見交換をしました。

【センターの主な教育事業】

○子育て支援学級（自主活動学級）

小中学校の教員と連携して、火・木曜日に取り組んでいます。仲間とのつながりを深める活動や、進路の実現に向けた学習を行っています。

○校区の連携の取組

一人ひとりを大切にした教育を推進するため、センターを中心に、保育園、幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、関係機関が連携して研修会や連絡会等、様々な取組を進めています。

意見交換より

委員：地域に根差した活動ができるといいと思います。青年世代や高校生がセンターの取組に参加できるといいのではないのでしょうか。

委員：人権に関わる歴史を学ぶことは大切だと思います。
センター：小中学校の時から全県的に人権教育を充実させていくことが大事です。

委員：県への要望や意見などはどうですか。
センター：センターに教員が配置されている人的体制を継続していただきたいです。

委員：家庭の中に入って活動できているのがいいですね。大切に育てられたら、周りの人も大切にできると思います。

委員：身近なところにロールモデルがあると、子どもたちはそれを見て、がんばれると思います。

教育委員の感想

<土井委員>

学校、家庭と地域をつなぎ、課題を抱える子どもたちのために、日々ご尽力をいただいていることに感謝いたします。このような取組は、様々な要因で経済的・社会的困難を抱える子どもたちにも広げていく必要があるでしょう。また、学校など、身近で子どもたちに居場所を提供できる施設等と、それらを取りまとめつつ、より大きな困難を抱える子どもたちに対応する専門的な施設をどのように組み合わせるか。人口の減少が進む中、地域に根差した活動を維持していく上で重要な課題であると感じました。

<岡崎委員>

困難な状況にある子どもを幼稚園から高校までと長期にわたり学校、地域、センターで連携して支援しているセンターの取組がよく分かりました。これまでの取組で三雲の子どもたちの高校進学率も高まっており成果が出ていると感じました。これを実現できているのは、センターに教員が配置されている事が大変重要なことだという事が分かりました。

<野村委員>

「人を大切にする人になってほしい」という願いから人権学習に取り組み、地域の子どもたちがたくましく育ち、力強く生きていくためにセンターを拠点に小、中学校と連携しながら自主活動を通し活動されていることに温かさを感じました。人権学習はその歴史を正しく学び、学んだことを共有し一人ひとりの人権が尊重される社会に繋げていかなければいけないと感じています。人権教育は年齢を問わず繰り返し行っていかなければならないと認識しています。今後も県と市とのネットワークを大切に、人権教育を推進していただきたいです。



滋賀県教育委員会では、『人権教育推進プラン』に基づき、「人権を尊重する人間を育てること」「本来持っている個人の能力を発揮し自己実現を図ること」「人と人が豊かにつながり共に生きること」を目指して、教職員等の研修をはじめ関係機関との連携のもと、人権教育の充実を図っています。すべての子どもが輝く魅力ある学校づくりに向けて、「人権の視点」をあらゆる教育活動の根幹に位置づけ、一人ひとりを大切にした「授業づくり」「仲間づくり」「環境づくり」を推進していきます。

<教育総務課 企画係>